

## 漢字のうた【師範代養成コース 初段】

### 1

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたか頓と見當がつかぬ。

何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いて居た  
事丈は記憶して居る。

吾輩はこゝで始めて人間といふものを見た。

然もあとで聞くとそれは書生といふ人間中で一番癡悪な  
種族であつたさうだ。

### 2

此書生といふのは時々我々を捕へて煮て食ふといふ話で  
ある。

然し其當時は何といふ考へもなかつたから別段恐しいと  
も思はなかつた。

但、彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時、何だか  
フワフワした感じが有つた許りである。

掌の上で少し落ち付いて書生の顔を見たのが、所謂人間と  
いふものゝ見始めであらう。

3

吾輩は池の前に坐つてどうしたらよからうと考へてみた。別に是といふ分別も出ない。暫くして、泣いたら書生が又迎へに来てくれるかと考へ付いた。

ニヤ、ニヤと試みにやつてみたが誰も來ない。

其内、池の上をさらさらと風が渡つて日が暮れかゝる。

腹が非常に減つて來た。泣きたくても聲が出ない。

仕方がない、何でもよいから食ひ物のある所迄あるかうと決心をして、そろりそろりと池を左に廻り始めた。

4

どうも非常に苦しい。

そこを我慢して無理やりに這つて行くと、漸くの事で何となく人間臭い所へ出た。

此所へ這入つたら、どうにかなると思つて、竹垣の崩れた穴から、とある邸内にもぐり込んだ。

縁は不思議なもので、もし此竹垣が破れて居なかつたなら、吾輩は遂に路傍に餓死したかも知れんのである。

一樹の蔭とはよく云つたものだ。